

平成30年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－1号)

農林総合研究センター
平成30年5月18日調査

気象経過

< 平年対比 >

【平均気温】

- ・ 4月上旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+1.7℃、輪島+1.2℃）。
- ・ 4月中旬は、金沢、輪島ともに並だった（平年差：金沢+0.8℃、輪島+0.5℃）。
- ・ 4月下旬は、金沢、輪島ともにかなり高かった（平年差：金沢+2.3℃、輪島+2.7℃）。
- ・ 5月上旬は、金沢は低く、輪島は並だった（平年差：金沢-0.2℃、輪島+0.1℃）。

【日照時間】

- ・ 4月上旬は、金沢、輪島ともに少なかった（平年比：金沢 90%、輪島 85%）。
- ・ 4月中旬は、金沢、輪島ともに並だった（平年比：金沢 107%、輪島 95%）。
- ・ 4月下旬は、金沢は多く、輪島は並だった（平年比：金沢 115%、輪島 105%）。
- ・ 5月上旬は、金沢は少なく、輪島はかなり少なかった（平年比：金沢 71%、輪島 53%）。

【降水量】

- ・ 4月上旬は、金沢は多く、輪島はかなり多かった（平年比：金沢 133%、輪島 272%）。
- ・ 4月中旬は、金沢は並、輪島はかなり多くなった（平年比：金沢 108%、輪島 234%）。
- ・ 4月下旬は、金沢は多く、輪島は並となった（平年比：金沢 167%、輪島 107%）。
- ・ 5月上旬は、金沢はかなり多く、輪島は多かった（平年比：金沢 189%、輪島 143%）。

【1ヶ月予報】

5月17日発表の1か月予報（5月19日～6月18日）では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

生育概況等

【育苗】

1. 播種は3月末から開始され出芽揃いは概ね良好であった。4月は気温が平年よりかなり高く、日照時間は平年並に経過したことから、苗の生育は概ね順調となった。
2. 苗丈はコシヒカリ、ゆめみづほとも平年より長く、第1鞘高長はコシヒカリ、ゆめみづほとも平年より長くなった。
「ひやくまん穀」の苗丈は前年並、第1鞘高長は前年より短くなった。
3. 乾物重はコシヒカリ、ゆめみづほともに平年より重く、充実度ではコシヒカリが平年よりやや低く、ゆめみづほは平年並となった。
「ひやくまん穀」の乾物重は前年度より重く、充実度は前年度より高くなった。
3. 病虫害では、一部で細菌性病害の発生が見られた。

【本田の生育】

1. 田植え始期は、加賀地区で4月28日、能登地区で4月29日、田植盛期は、加賀地区で5月2日、能登地区で5月5日となり、県全体の田植盛期は5月4日と平年並で、前年に比べ1日遅くなった。
2. 5月上旬の強風の影響等から、葉先枯れ等が散見され、一部圃場では葉色の発現が遅れたものの、その後順調に活着するなど、生育は回復しており、概ね順調である。
3. 草丈は、コシヒカリ、ゆめみづほともに平年よりやや長く、ひやくまん穀は前年よりやや長くなっている。
コシヒカリ : 加賀 105% 能登 108% 県平均 : 106%

ゆめみづほ : 加賀 101% 能登 124% 県平均 : 108%
ひやくまん穀 : 加賀 102% 能登 (前年値なし)

4. 葉数展開は、コシヒカリ、ゆめみづほとも平年並となっており、ひやくまん穀では県平均で 3.4 葉となっており、前年より 0.2 葉遅くなっている。

コシヒカリ : 加賀 -0.2 葉 能登 +0.2 葉 県平均 : -0.1 葉
ゆめみづほ : 加賀 -0.2 葉 能登 +0.3 葉 県平均 : -0.1 葉
ひやくまん穀 : 加賀 -0.2 葉 能登 (前年値なし)

5. 分けつの発生は、田植えの早い圃場 (4 月下旬~5 月初旬) で確認されている。

【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシによる食害が県内全域で散見されるほか、一部地域では、イネゾウムシ、イネドロオイムシの食害が散見されている。

また、雑草地における斑点米カメムシ類の生息数は並となっている。

当面の対策

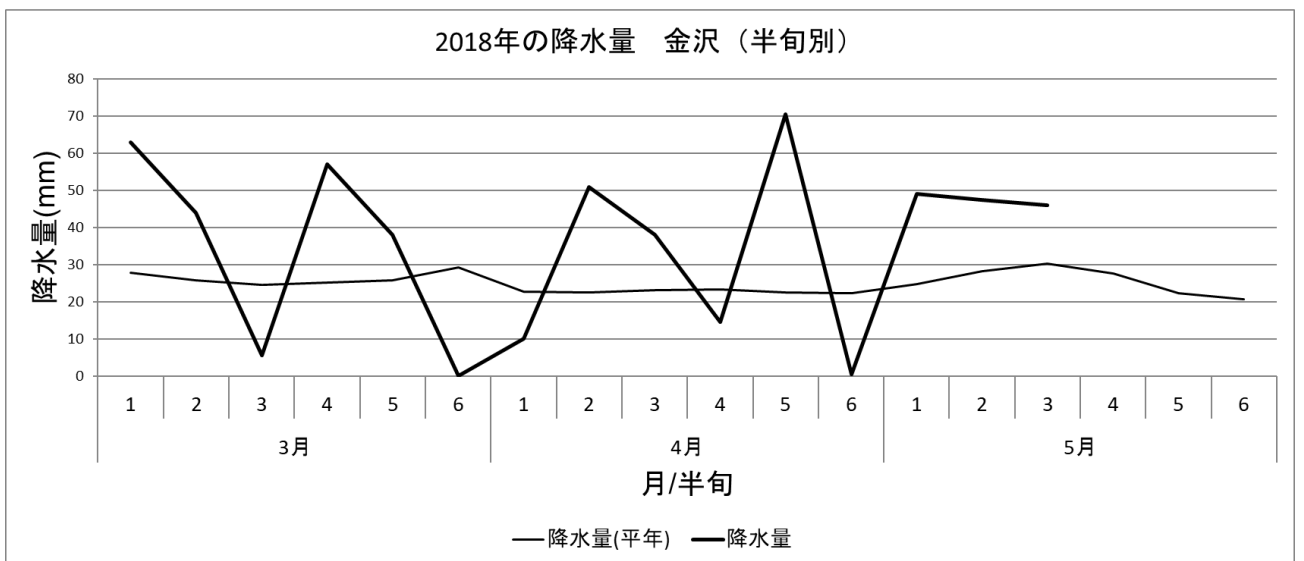
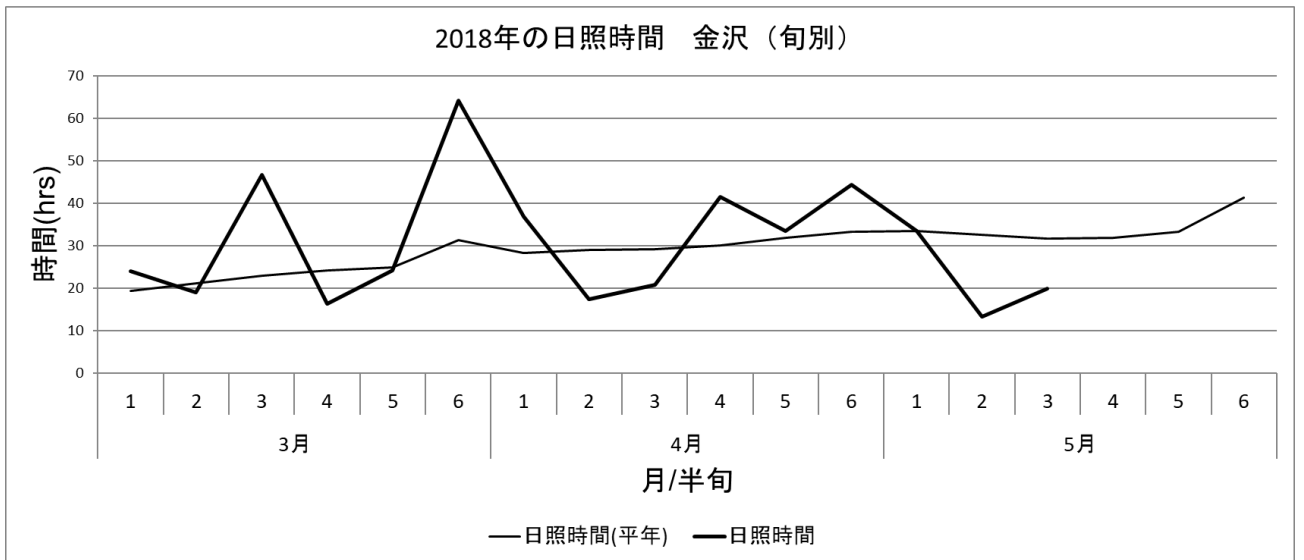
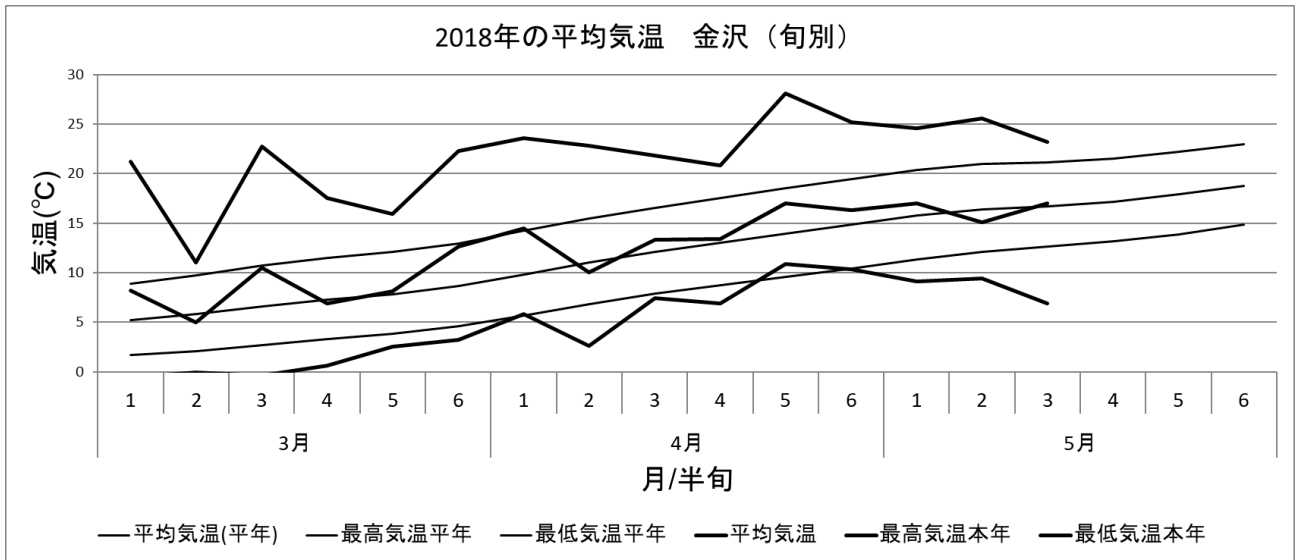
【本 田】

1. 浅水管理により、良質分けつの確保に努める。
2. 好天時には軽い田干しを必ず行い土壌中のガスを取り除き、根の健全化を図る。特に中期除草剤散布前には必ず田干しを行ない、稲体の軟弱化を防止する。
3. 本田除草剤は、これから気温が高くなることが予想されており、ノビエ等雑草の発生が早まる恐れがあることから、適正な時期に遅れずに散布する。なお、除草剤散布後 7 日間は落水や掛け流しをしないこと。
4. 中干し開始は、田植後 1 ヶ月を目安に行うが、生育の早い圃場では目標茎数 (目標穂数の約 70%、1 株当たり コシヒカリ : 13~15 本、ゆめみづほ : 15~17 本、ひやくまん穀 : 12~14 本) に達したら田植後 1 ヶ月を待たずに直ちに開始する。

【病害虫】

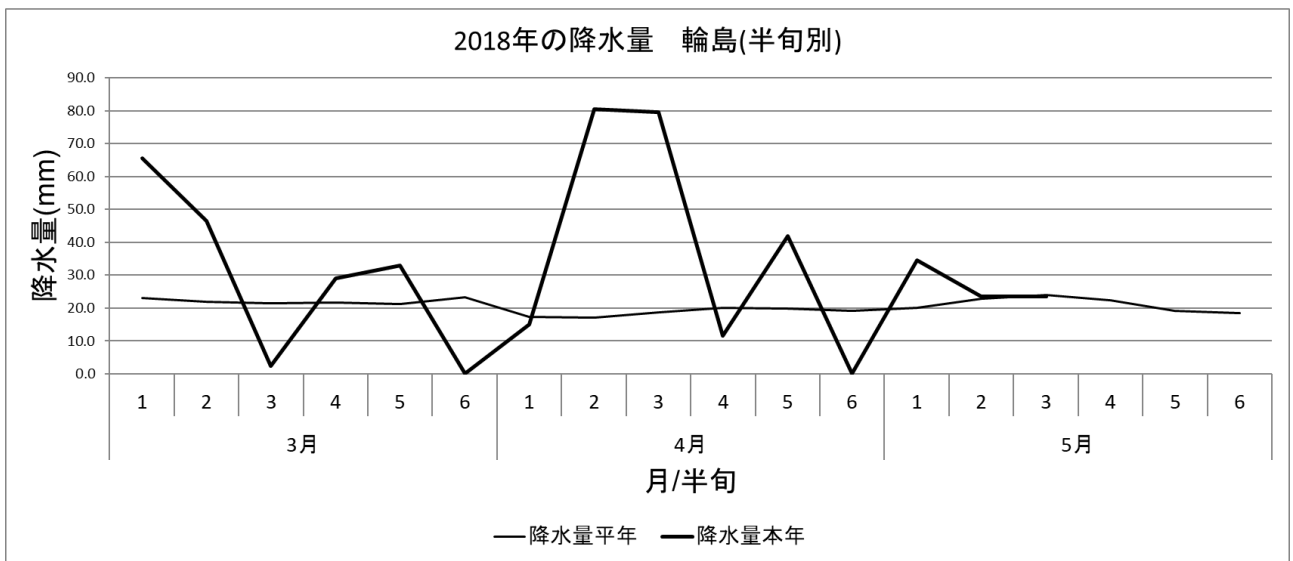
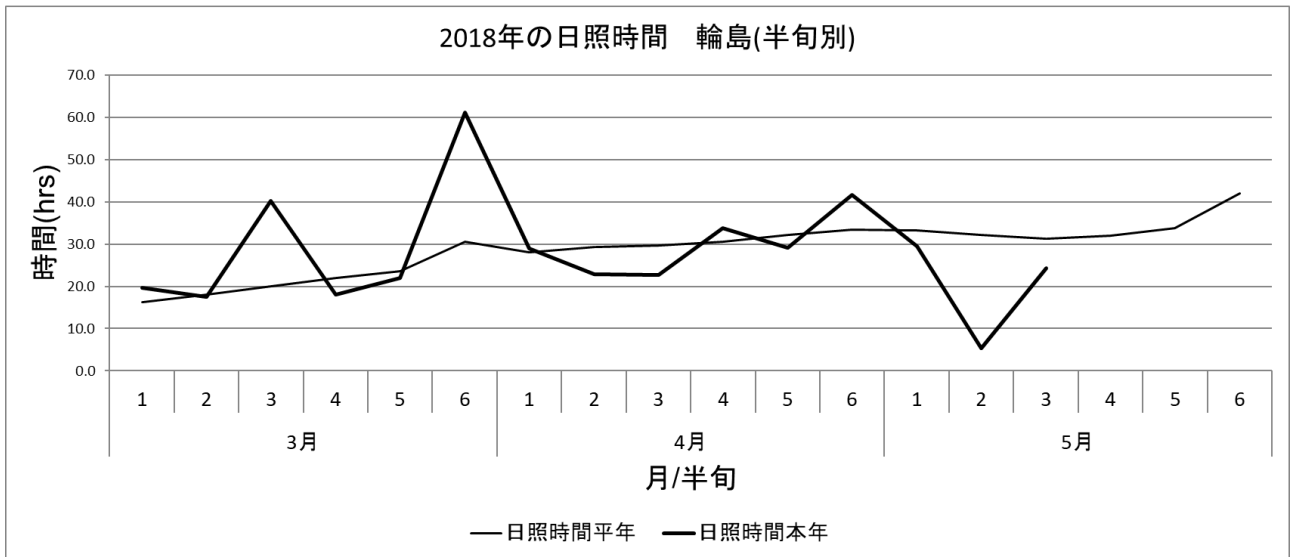
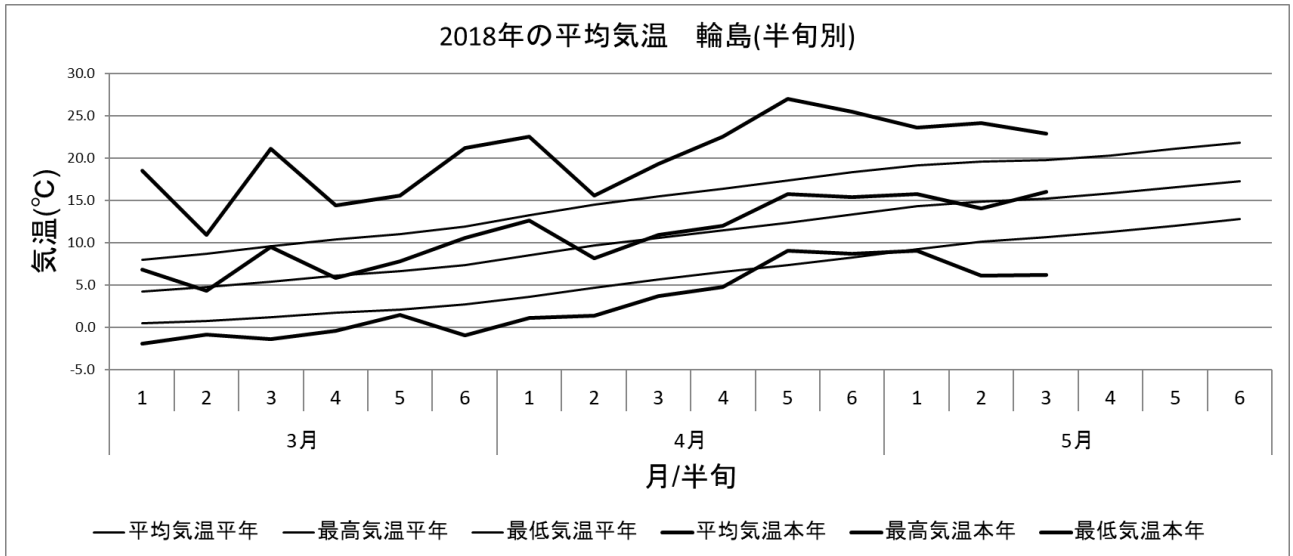
1. 補植苗の本田放置は、葉いもちの発生源となるので早急に取り除く。
2. イネミズゾウムシの防除 (箱施薬) をしていない場合は、成虫が 1 株当たり 0.3 頭以上認められたら、湛水状態で粒剤散布により防除を行う。
3. イネドロオイムシの防除 (箱施薬) をしていない圃場では、1 株当たり 1 卵塊以上認められたら、湛水状態で粒剤散布により防除を行う。
4. 斑点米カメムシ類の発生を防止するため、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。
なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い